

りんどうにおけるアザミウマ類の発生生態と防除対策

(園試環境部)

1. 背景とねらい

本年は各種花きでアザミウマ（スリップス）類が多発し、大きな被害を受けた。りんどうにおける本害虫の発生生態と防除に関する知見は非常に少ないため、平成3年度から花き類病害虫発生予察実験事業で取り上げ試験中であり、これまでに得られた成果について参考に供する。

2. 技術の内容

(1) 被害の様子

ア. 成幼虫が花の内部から花卉を加害する。加害部位は脱色し、やがて白色または淡褐色に変色するので、商品価値が低下する。多発すると花の外部からも加害する。

イ. 夏期に開花する極早生～中生品種で被害が大きい。

(2) 発生生態

ア. りんどうに寄生するアザミウマの種類はヒラズハナアザミウマである。

イ. 開花が最も早い品種の開花初めから圃場内に大量飛来し、その後開花中の花で増殖する。新成虫になると再び開花始め～開花中の花に移動して増殖する。しかし、葉にはほとんど寄生しない。

(3) 防除対策

ア. 開花期始めから1～2回薬剤防除を行う。

イ. 防除薬剤はオルトラン水和剤1000倍が効果が高い。

ウ. 周辺にクローバなど春から秋まで連続して開花する植物がある圃場では被害を受けやすいので、これら植物を随時刈り取り、飛来源を少なくする。

3. 指導上の留意事項

(1) 収穫を終了した品種が発生源となるので併せて防除する。

(2) 栃木県の一部圃場では葉に大きな被害を与えるチャノキイロアザミウマが発生しているが、本県では確認していない。

(3) 施設栽培では未検討だが、葉に寄生し被害を生ずることがあるので、被害を認めたら薬剤防除を行う。

4. 試験成績の概要

表1 青色粘着トラップにおけるアザミウマ類の飛来消長

年 度	5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
平4年	-	-	-	-	-	-	7	107	255	46	66	182	49	19	19	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	98	166	676	261	269	667	325	263	274	97	91	124
6	0	3	55	38	22	56	492	672	606	529	423	607	234	120	82	79	17	8

表2 葉におけるアザミウマ類の寄生消長（平成6年）

調 査 月 日	6/ 15 22		7/ 4 13		8/ 20 27		8/ 4 10		8/ 19 26		9/ 1 9		10/ 19 3	
寄生虫数	0	0.5	0.2	0.3	0.6	0.2	0.2	0.4	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0

数値は1茎当たり. 25茎調査

表3 花におけるアザミウマ類の寄生消長（平成5年）

調 査 月 日	蕾		若干開花		開花中		やや老化	
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
7/21	0	0	6.2	0.6	-	-	-	-
8/ 2	0	0	10.1	0.9	9.5	2.5	0	17.5
10	0	0	6.7	0.4	7.4	8.2	0	11.3

数値は1花当たり. 各20花調査.

表4 ヒラズハナアザミウマ防除試験（平成4年）

供試薬剤	希 積 倍 数	調 査 時 期	1花当たり寄生虫数			補正密 度指数
			成虫	幼虫	合計	
オルトラン水和剤	1000倍	散布前	-	-	44.0	
		3日後	2.4	0.2	2.6	5.3
		7日後	4.7	0	4.7	7.6
トレボン乳剤	2000	散布前	-	-	49.9	
		3日後	23.2	1.9	25.1	45.5
		7日後	20.7	11.2	31.9	45.5
無 処 理	-	散布前	-	-	37.3	
		3日後	34.6	6.6	41.2	
		7日後	16.4	36.0	52.4	

散布時期：8月4日（開花初め）、品種：極早生系